

氏名	あさみ まさひろ 朝見 正宏
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1289 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	交通事故で受傷した重症頭部外傷患者における病院搬入時の生理学パラメーターと予後についての検討（頭部外傷データバンク【プロジェクト 2015】より:【プロジェクト 2004, 2009】との比較）
指導教員	教授 三宅 康史（板橋・救急）
論文審査委員	主査 山下 雅知 教授（ちば・ER） 副査 山田 昌興 教授（溝口・脳外科） 副査 宮本 伸哉 准教授（ちば・脳外科）

論文審査結果の要旨

主論文「交通事故で受傷した重症頭部外傷患者における病院搬入時の生理学パラメーターと予後についての検討（頭部外傷データバンク【プロジェクト 2015】より【プロジェクト 2004, 2009】との比較）は、『帝京医学雑誌』に 2022 年に掲載予定の申請者を筆頭著者とする共著論文である。

日本頭部外傷データバンク・プロジェクト 2015 より、来院時心肺停止例を除く受傷機転が交通外傷の症例を抽出し、欠損データの無い 336 人を分析対象としている。これらの症例の 8 つの生理学的パラメーター（低酸素、低換気、血圧異常、体温異常、高血糖、多発外傷の有無、脳圧測定、D-dimer 高値）を説明変数として、Glasgow outcome scale (GOS) の予後良好群 ($GOS \geq 4$) と予後不良群 ($GOS \leq 3$) との関連を χ^2 検定により検討している。その結果、低換気、血圧異常、低体温、高血糖、多発外傷、D-dimer 高値が、予後不良と関連があることが示されている。また、日本頭部外傷データバンク・プロジェクト 2009 を使用した前研究に比して、受傷形態では自転車および歩行者の割合が増えていること、新たに高血圧と低換気状態が神経学的予後不良と関連していることが提示され、さらに低酸素・低換気状態以外の生理学的パラメーターが前研究に比して、病院搬入時に是正されている割合が増加していることも示されている。

本研究の解析は、重回帰分析などの多変量解析ではなく、すべて χ^2 乗検定により個別に定性的に行われていること、頭部外傷データバンク・プロジェクトには病院搬送時間や病院前処置の有無などの記載がないことなどの欠点もあるが、病院前救護による生理学的パラメーターの改善が、交通外傷による重症頭部外傷症例の神経学的予後を改善できる可能性を示唆している点が評価できると考えられる。

申請者は、2021 年 12 月 1 日に行われた学位審査会において、当該領域の十分な知識と経験を有していることが確認された。

以上により、学位授与に値すると判断した。